

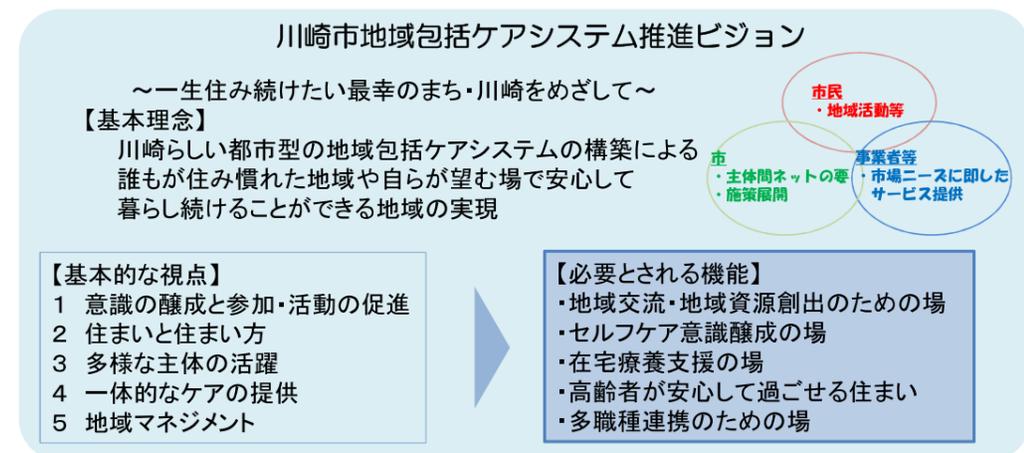
日本医科大学地区開発計画における導入機能について

1 経過

- ・昭和12年 : 日本医科大学武蔵小杉病院開院
- ・平成20年～ : 日本医科大学より、病院の建替えを中心とする開発の相談
- ・平成21年3月 : 都市計画マスタープラン小杉駅周辺まちづくり推進地域構想策定（小杉駅北側：「医療と文教の核」に位置づけ）
- ・平成23年10月 : 日本医科大学と小学校の新設に向けた協定を締結
- ・平成26年2月～ : 開発計画に関する事業者説明会（8回）、アンケート調査を実施し、市民意見を聴取
- ・7月～ : 上位計画や地元意見を踏まえ、高齢者福祉機能の導入、医療・福祉連携等について、日本医科大学と協議・調整を実施
- 11月～ : 日本医科大学が地元意見を踏まえた開発計画の方向性について地元説明会を開催
- ・平成27年3月 : 川崎市地域包括ケアシステム推進ビジョン策定
: 平成26年度 第22回政策・調整会議で、本地区において「川崎らしい都市型の地域包括ケアシステムの構築」に向けた先導的モデルをめざすこととした。
- 4月 : 市から日本医科大学に先導的モデルを実現するための機能導入について要請
: 日本医科大学から導入機能の公共性、収益性を踏まえた継続的・安定的な運営の観点で、先導的モデルの実現に寄与する高齢者向け福祉サービスに係る床の寄附と市による管理・運営等の協力について依頼を受け、協議を実施

2 導入機能の協力要請と課題

先導的モデルの実現に向けて、「川崎市地域包括ケアシステム推進ビジョン」で示された、【必要とされる機能】の導入を事業者に要請してきたが、これらの機能をすべて民間で導入し、運営するには、公共性の高い機能の担保が困難であり、地域とのつながりの視点での課題が生じる。

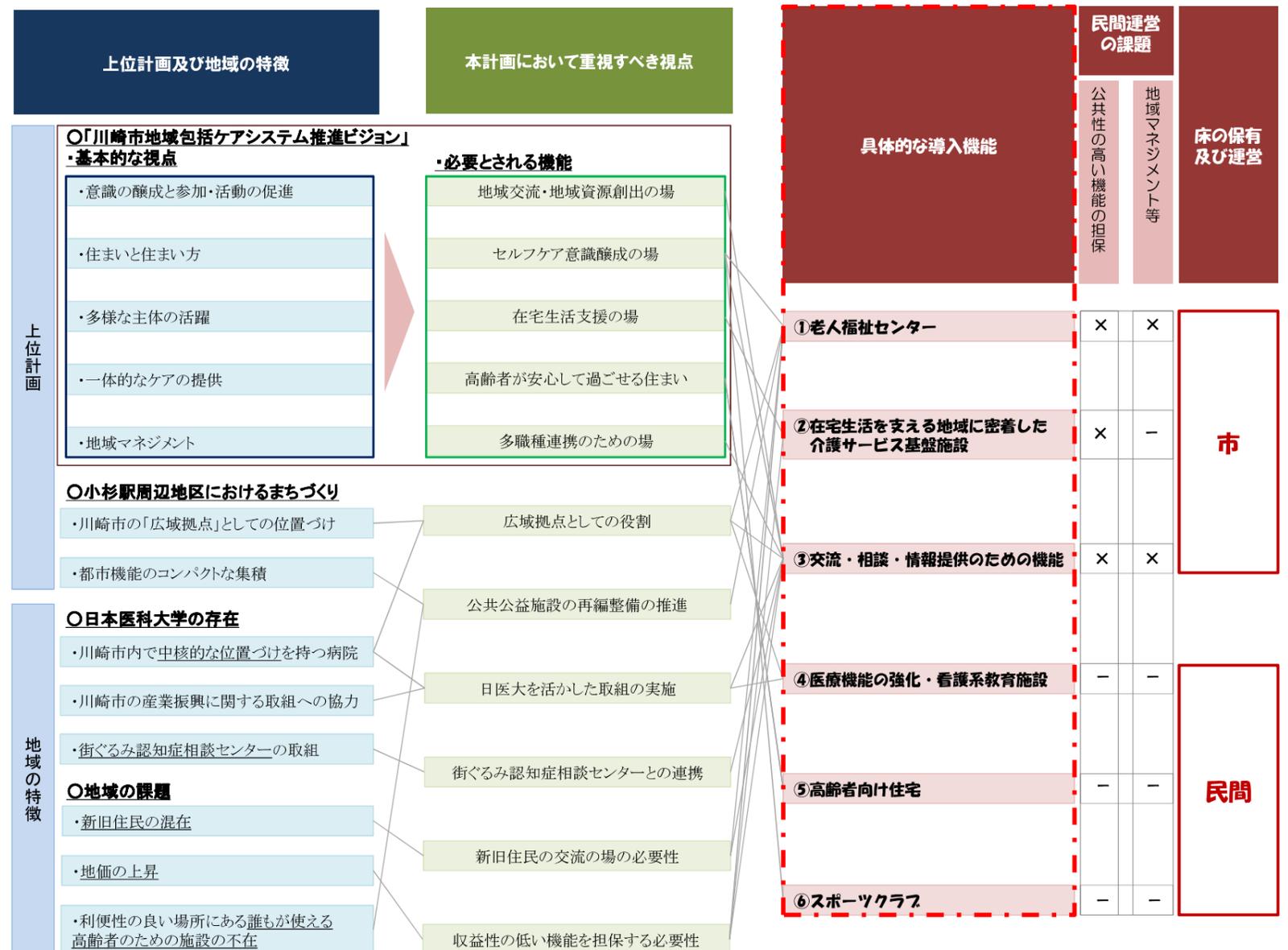


3 先導的モデルの実現に向けた基本的な考え方

本市は、地域に身近な基礎自治体として地域包括ケアシステムをマネジメントし、市民・事業者・関係団体など多様な主体間のネットワーク構築において中心的な役割を担うため、事業者からの寄附提案を受けて、公共性の高い機能の運営を担うことで、先導的モデルの実現を図る。

一方で、市場のニーズに対して質の高いサービスを提供する民間のノウハウを活かして、官民連携の取組みの強化による、先導的モデルの実現を図る。

4 日医大との協議による具体的な導入機能



5 導入機能の内容

寄贈床合計
約1,700㎡

(1) 川崎市が事業者から床の寄附を受け床の保有及び運営を行う機能

①老人福祉センター 約1,000㎡

(所管：健康福祉局)

予防・健康づくり

- ・介護が必要となる前の介護予防の拠点
- ・地域交流の拠点

※老朽化した中原老人福祉センターを移転整備し、移転後の跡地活用については、特別養護老人ホームの整備を基本に、地元の意見を伺いながら検討を進める。

②在宅生活を支える地域に密着した介護サービス基盤施設 約500㎡

(所管：健康福祉局)

一体的なケア

- ・「看護小規模多機能型居宅介護」や「定期巡回・随時対応型訪問介護看護サービス」等、介護が必要になった場合でも在宅生活を支えるための機能を整備

※「看護小規模多機能型居宅介護」

⇒小規模多機能型居宅サービスと訪問看護を組み合わせた地域密着型サービスで、通い、訪問介護、ショートステイ、訪問看護を組み合わせサービスを提供することで、在宅での生活継続を支援する一体型サービス。

「定期巡回・随時対応型訪問介護看護サービス」

⇒ホームヘルパーや看護師が定期的に利用者宅を巡回するとともに、利用者またはその家族等からの通報に対し、常駐するオペレーターが相談援助を行う地域密着型のサービス。

③交流・相談・情報提供スペース 約200㎡

(所管：健康福祉局、経済労働局)

意識の醸成・多様な主体の活躍

- ・多世代が交流する地域活動の場（支え合いの意識の醸成とつながりの形成や新旧住民の交流の場）
- ・保健・医療・福祉に関する多職種が顔の見える関係をつくるための場
- ・日医大「街ぐるみ認知症相談センター」と連携した取組の実施
- ・認知症サポーター養成、かかりつけ医のスキル向上等の研修会の開催
- ・K I S 認証製品等のガラスケース展示
- ・ウェルフェアイノベーション® 推進のための会議やイベントのための場（ウェルフェアイノベーションフォーラムマッチング会等）

※②と③の機能は、整備段階における社会状況を踏まえ、今後具体的な機能の詳細検討を進める。

(2) 事業者等が床の保有及び運営を行う機能

①医療機能の強化・看護系教育機能

- ・高度医療対応の強化、救急医療の強化、地域の医療機関との連携等
- ・身近な医療を提供するクリニックの整備
- ・看護系教育機能の整備

②高齢者向け住宅

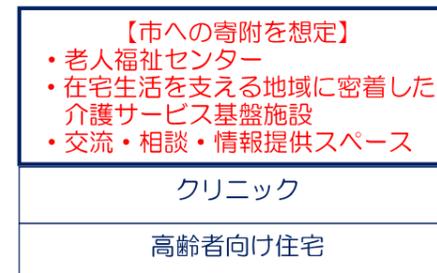
- ・在宅生活支援機能と連携した介護が必要になっても地域で住み続けられるまちづくりに寄与

③スポーツクラブ

- ・老人福祉センターと連携したスポーツを通じた健康づくり
- ・広場等を活用した地域向けの健康増進プログラム等の実施 等

6 計画案の概要

■位置図



■全体配置図



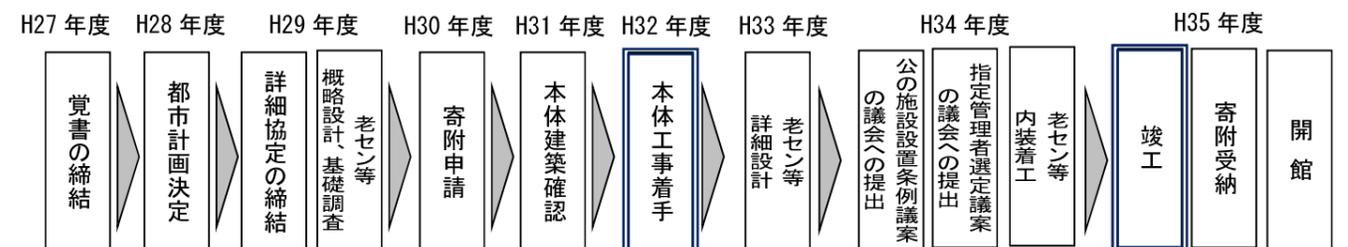
7 今後の手続きについて

(1) 役割分担

○床の寄附の手続きの内容等に関する事業者との覚書締結に向けた協議についてはまちづくり局が対応

○市が寄附を受けた床に導入する機能の詳細検討及び事業性の検討については健康福祉局が対応

(2) 手続きフロー（指定管理の場合）



中原老人福祉センターの移設について

1 老人福祉センターについて

- 【設置根拠】 老人福祉法
- 【趣 旨】 高齢者に関する各種相談に応じ、健康の増進、教養の向上及びレクリエーションのための便宜を総合的に供与する
- 【設置箇所】 市内7か所（各区に1か所）
- 【事業概要】 各種相談、各種教養講座、イベント、入浴事業、趣味・娯楽等

2 中原老人福祉センターの現状

中原老人福祉センター（旧長寿荘）は、昭和41年7月10日、中原区井田地区の丘陵地に開設し、現在48年を経過して、施設の老朽化が顕著となっている。

（指定管理者：川崎市中原区社会福祉協議会）

- 【所在地】 中原区井田3-16-2
- 【構造等】 鉄筋コンクリート造 2階建
- 【敷地面積】 4,158.13㎡
- 【延床面積】 1,507.87㎡
- 【用途地域】 第一種中高層住居専用地域



3 位置図



4 移設に関する考え方

中原老人福祉センターは老朽化が著しく、建て替えの検討を進めざるを得ない状況

日本医科大学武蔵小杉病院開発計画
事業者から、川崎らしい地域包括ケアシステム構築に寄与するべく、福祉機能の一体的な整備について、市への協議依頼がなされる。

「川崎らしい都市型の地域包括ケアシステムの構築」のモデルとなる開発へ

日本医科大学から地域包括ケアシステム構築の実現に向けての協力要請がある中で、これからの老人福祉センターのあり方や方向性を示す上でもコンセプトが一致しているため、地域包括ケアシステムにおける保健・予防を推進するための機能を備えた新たな「老人福祉センター」と位置づけ、中原老人福祉センターを日本医科大学からの寄贈床に移転・整備する。（平成35年度を予定）

- ▶ 同地区に設置されるスポーツクラブとの連携により、プール等を利用した健康づくり・介護予防のプログラムを検討する。
- ▶ 子どもから高齢者・障がい者の方まで、対象を限定しない多目的な交流の場として、交流スペースと連携しながら、地域コミュニティを構築していく中での役割を担えるよう検討する。

5 移設によるその他の効果

- 現在の中原老人福祉センターは、周辺の住宅地から離れた高台に立地していることから、高齢者向けの施設としては利便性に欠けているため、武蔵小杉駅近辺に移設することで、利便性の向上が期待できる。

6 跡地について

- 跡地活用については、特別養護老人ホームの整備を基本に、地元の意見を聞きながら検討を進めていく。